

## 第8章 史跡の活用

### 第1節 活用の方向性

高遠城跡を地域の歴史や景観を楽しめる学びの場や都市公園や自然公園として市民が集う憩いの場、公園の成り立ちとともに育まれた文化的景観を活かした地域振興や観光の拠点として、活用を図ります。

学校教育や生涯学習による活用や、観光団体や史跡ガイド団体、博物館施設等と連携した活用を進めることで、市民やの高遠城跡への関心や愛着心を高めます。

### 第2節 活用の方法

#### 1 史跡の公開

##### (1) 公開

- ・史跡を通年公開し、その価値や一体となった景観の魅力を市民や多くの人たちに伝えます。併せて、公開活用に必要な施設(案内板や解説板等の標識、園路、便益施設、ゲート等)の維持管理を行います。
- ・きさぐるわ笹曲輪の公開と西口の開放について、太鼓櫓の改修検討と併せて検討します。
- ・公開活用に必要な駐車場について、第5章第2節に挙げた課題のとおり長期的な検討課題とし、暫定的な措置として、当面の間は多目的広場となっているかんすけぐる勘助曲輪を利用します。あり方検討に際しては、勘助曲輪の位置や鍛冶堀の連続性を表現するような整備を視野に入れた検討を行います。

##### (2) 公開施設(しんとくかん たかとおかく進徳館、高遠閣)の利活用

- ・進徳館を通年公開し、藩校という歴史的背景を活かしながら、学びの場として活用します。公民館との連携により小学生を対象とした「夏の学校」を開催し、史跡に親しむ機会を設けます。
- ・高遠閣を史跡や公園管理の拠点施設として利活用します。また、史跡内で行われる各種イベントに合わせて高遠閣の積極的な公開を行います。講演会や各種イベントに加え、地域食材であるそばうちの場合や心身障がい者の活動支援の場等、多目的な活用を進めます。

##### (3) 見学基本ルートの設定

- ・以下に示す見学基本ルートを基に、今後策定予定の整備基本計画の中で詳細な動

線計画を策定し、案内板や解説板等の標識や園路、便益施設の整備につなげます。

- ・見学基本ルートは、史跡内における①史跡全体の見どころ(本質的価値を構成する要素)を回りながら高遠城跡の特徴を体感できるルートである「お城編」と、②城の歴史性(廃城後の公園の歴史)に関連する要素や都市公園、三峰川水系県立公園の見どころを回るルート「公園編」の2つを設定します。

### 史跡高遠城跡見学基本ルート お城編

史跡高遠城跡全体の見どころ（高遠城跡の本質的価値を構成する要素）を回りながら、高遠城跡の特徴を体感できる見学ルート

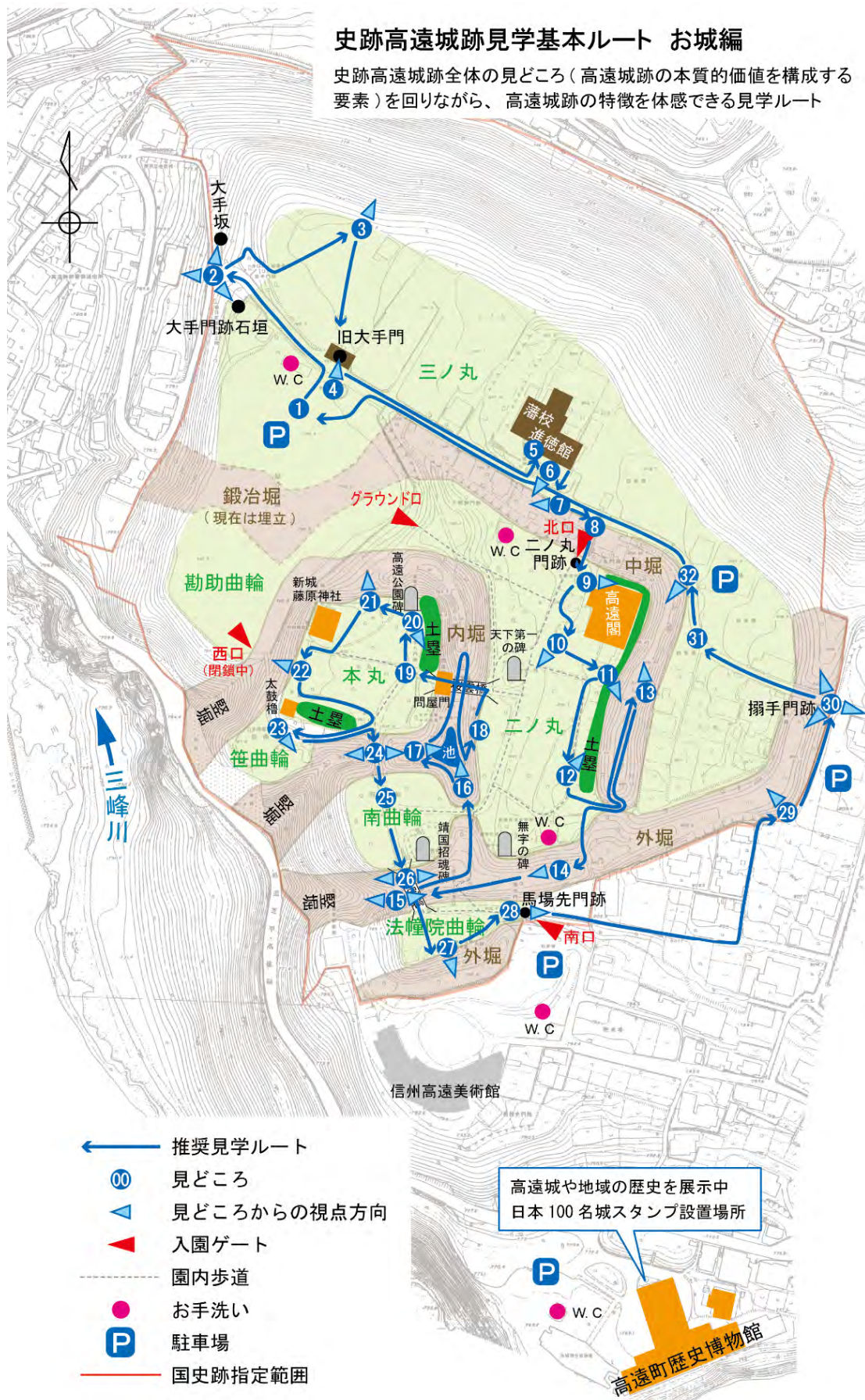


図. 史跡高遠城跡見学基本ルート お城編



図. 史跡高遠城跡見学基本ルート お城編 各地点からの見え方

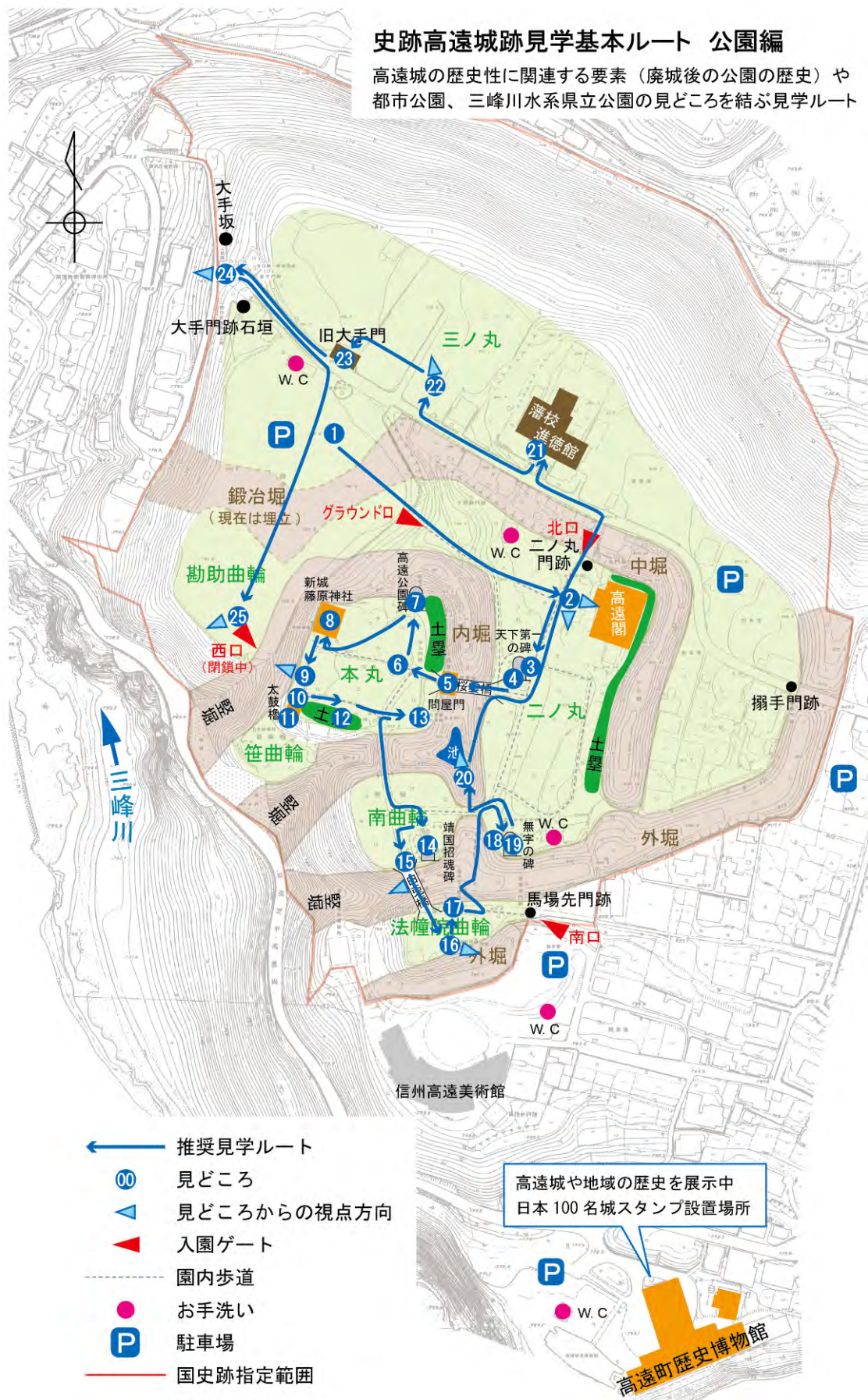


図. 史跡高遠城跡見学基本ルート 公園編

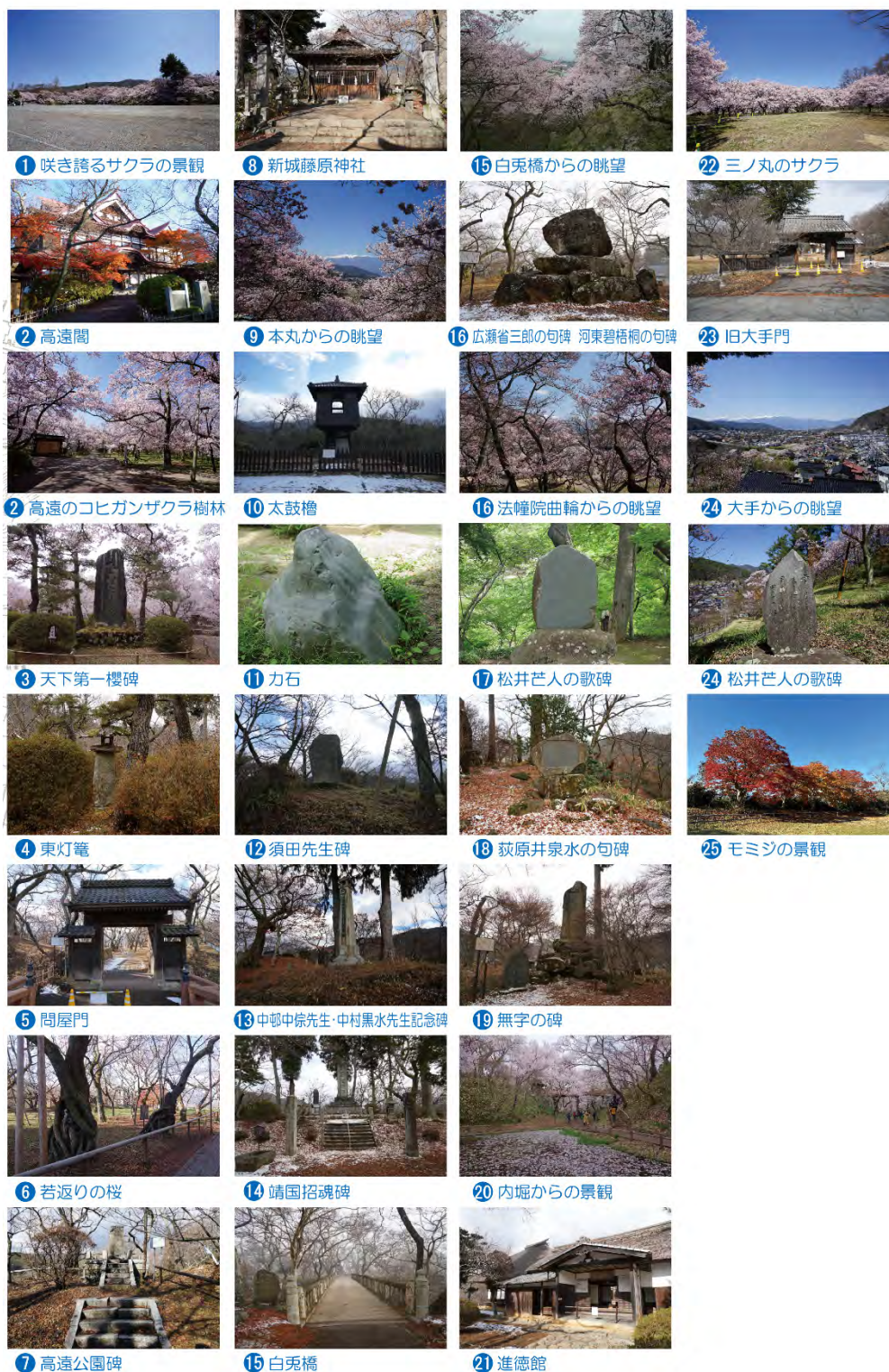


図. 史跡高遠城跡見学基本ルート 公園編 各地点からの見え方

#### (4) サイン(標識、説明板、標柱、<sup>きょうかいひょう</sup>境界標)設置の方法

- ・ 史跡の管理や訪れる人への案内や誘導に必要なサイン(標識、説明板、標柱、境界標)について、適切な位置に史跡の景観と調和しながら統一感を持って整備がされるようサイン計画(標識等サイン整備における基本的な方針)を策定し、計画に基づいた更新や設置を行います。
- ・ 案内板や説明板の内容更新の際には、QRコードを説明板に入れるなど、最新の研究動向を踏まえて高遠城跡の価値が理解できるようにします。

### 2 学校教育における活用

- ・ 小中学生向けの副読本『わたしたちのふるさと』等の学習教材を利用し、史跡への理解や愛着心を育みます。また、楽しみながら学べる学校向けプログラムを提案し、市内小中学校、高等学校等における史跡の学習機会を増やします。
- ・ 市外小中学校が実施している宿泊学習等の受け入れに際して、まち歩きプログラムの中に高遠城跡を盛り込み、地域外の児童や生徒たちに対しても高遠城跡の価値を理解してもらえる機会を設けます。

### 3 生涯学習における活用

- ・ 高遠城跡の価値を多くの市民に伝えるため、現地見学の機会を設けるほか、既存の公共施設で史跡の展示や講座等を実施します。

### 4 情報発信とデジタル技術を用いた活用

- ・ 史跡の魅力や価値をよりの確に発信できるよう、市の広報誌への掲載やパンフレットの作成配布、『高遠城跡ガイドブック』の増刷販売を行います。また、幅広い層により詳しい情報や最新の情報を広く届けるため、紙媒体ばかりでなくホームページの充実を図るとともに、SNSでの情報発信を検討します。
- ・ 現地において史跡の本質的価値が分かりにくい場合は、デジタル技術を用いた公開等の手法を検討します。

### 5 史跡ガイドボランティアや地域団体への支援と連携

- ・ 史跡ガイド活動を行う史跡案内グループ「ふきのとう」の会や伊那市観光ガイド、史跡内の清掃活動を実施している高遠郷土研究会等への継続的な支援を行い、市

民や地域団体と連携を図りながら活用を進めます。

## 6 周辺地域の歴史文化資源や博物館施設との連携による活用

- ・地域の成り立ちを高遠城との関わりを実感できるよう、周辺地域にある高遠城跡の本質的価値に関連する要素やその他の歴史文化資源と史跡を結ぶ広域散策ルートを設定し、関係機関と連携して史跡と一体的な活用を図ります。
- ・高遠城跡のガイダンス施設としての機能を兼ねた伊那市立高遠町歴史博物館において、高遠城の展示を充実させます。出土遺物や絵図、文献史料等の公開を行い、多くの市民や来館者に高遠城跡の歴史や価値、魅力を伝えます。

## 7 地域振興や観光、地域間交流の拠点としての活用

- ・(一社)伊那市観光協会等の観光団体をはじめ、各種団体と連携して、史跡の本質的価値を活かした市民参加型・体験型のイベントや、史跡を拠点とし、周辺観光にも資するような取組を行います。
- ・城の歴史性に関連する固有種のタカトオコヒガンザクラやその樹林を、遺構に影響しない範囲で保全し、地域振興や環境教育等史跡と一体的な活用を図ります。
- ・四季を通じて利活用される史跡を目指し、城の歴史性に関連した要素を活かした観光振興、地域振興に資するイベント(さくら祭りやもみじ祭り等)を行います。
- ・高遠城に関わる歴史や文化を活かし、関係する地域(東京都新宿区、福島県会津若<sup>あいづわか</sup>松市、山梨県<sup>まつ</sup>韮崎<sup>にらさき</sup>市等)との交流のさらなる発展につなげる。